

《目次》

- 1・・・目次
- 2・・・事前準備
- 3・・・下見・先発
- 4・・・国内合宿
- 5・・・キャンプのスケジュール
- 6・・・ワーク
- 7-8・・・ワークショップ
- 9・・・スポーツフェスティバル
- 10・・・ホームステイ
- 11・・・会計報告
- 12・・・生活・安全
- 13・・・交通関係・FIWC 道具リスト
- 14・・・T シャツ
- 15・・・現地 NGO との協力体制
- 16・・・各種連絡先
- 17・・・ビサヤ語
- 18-19・・・持ち物リスト
- 20・・・MAP

《事前準備》 (モモ)

4月～：リクルート。チラシを制作し、説明会を行い、新旧メンバーに各行事への参加を促す

5月：九州大学 C&C プロジェクト審査会

7月後半： 下見航空券予約（下見メンバーほぼ決定）

8月1週目： 下見メンバー確定

8月中旬：下見直前ミーティング

・下見前にすること：

1. 航空券予約
2. 承諾書に親のサインをもらう
3. 詳細なスケジュールを、昨年の下見参加者とともに検討
—どこで、何を、いつやるか。誰に会う必要があるか。
4. NorWeLeDePai にスケジュールや計画を連絡（出発2週間前までに）
5. 現地での滞在先に連絡
6. 初フィリピンの人へ、持ち物や予防接種の案内
7. 保険加入

9月：下見報告書作成、報告会

9月下旬～：チラシ作成（説明会日程を書く）、メンバー集め

11月下旬～：係りを決めて、毎週ミーティングおよび説明会

12月上旬：航空券予約

1月1週目：メンバー確定

1月：保険説明、航空券支払い

2月：先発隊出発

3月：本キャン

4月：報告書締め切り、報告会

・本番キャンプ前にすること：

1. 下見会計報告、本キャン見積もり
2. 航空券予約
3. NorWeLeDePai に連絡（自分たちの計画を伝え、キャンプ地の変化を聞く。担当者の連絡先などを確認する。）
4. 係りきめ
5. メンバー連絡先一覧作成
6. 承諾書に親のサインをもらう
7. 事前合宿計画

8. ワークショップ、スポーツフェスティバルなどのイベントの内容決め→日本語と英語で計画書を作り、英語の方は、NorWeLeDePai にメールで送信
9. キャンプのテーマとテーマソング決め
 10. 持ち物、予防接種、安全対策などのガイダンス
 11. 保険加入
 12. ビサヤ語講座
 13. フィリピン基礎知識講座（過去の経験から学ぶこと）
 14. その他勉強会

《下見 & 先発》

【下見について】 (ペコ)

8月22日から9月2日までの12日間を男2名・女5名の計7名で下見調査を行った。下見調査の目的は、プロジェクト・キャンプ地現決め、キャンプ地下見である。候補地は、はじめは現地 NGO(ノルウェルディパイ)に聞き、いくつか回った後、地方自治体(municipal matag-ob)にも候補地を挙げてもらい、計7村挙げてもらった中で、5村調査した。訪問の際はまず、村役人に村で何が一番の問題かを聞いたのだが、全ての村で水問題が挙げられた。他、舗装道路などの話も挙がった。問題解決のためにどのようなプロジェクトがしたいのか計画を聞き、その後、現状とプロジェクト予定地を見るために村を歩いた。村を歩くと、どんな人たちが住み、どんな環境なのかがわかる。ある村は緑のジャングルのようなところで、ある村にはコンクリートの道があった。行く村行く村まったく違った光景で、どの村でキャンプをするのか想像するだけでも楽しかった。

マンサハオン村も同じように、まず村長と市役所のエンジニアの人から村の水道の現状説明を受け、村の中を歩いて周りタンクの位置をの村はチェックした。また現在村人が利用している井戸やポンプも見て回った。そしてこの村に決定した。実際村の選択はとても難しく「私たちがプロジェクトをしたいと思う村」を選ぶという、直感に近いものであった。ただ、やはり問題の深刻度が決め手となった。また、work 費を一部負担する村にするというのは大条件であった。我々のプロジェクトで難しいことの一つに、村の人と FIWC の共同プロジェクトという認識を持つことである。その認識を村の人にも持ってほしい。そのため、お金の面でも村も一部を負担しお互いに出し合い、共同プロジェクトにしたかった。

村決定後

村を決定したのがレイテ離島2日前だったため、決定した次の朝、村に行き、村役人と話し合いをし、その後村人を集めて我々 FIWC を紹介し、エンジニアがプロジェクトの説明をし、村人に我々とプロジェクトのことを知らせた。その後はキャンプに備えて、どこ

で水浴びができるか、どこで寝れるかなど、どのような環境なのかをチェックし、その日は一夜を村で過ごした。

下見が終了し我々が帰国後の、現状確認、具体的計画、マテリアルの調達、workの指揮などの細かい準備は現地のNGOや地方自治体、村長、村人に任せた。彼らは個々に動いており、先発で村に戻ったときには、プロジェクトも進んでいた。彼らは連絡は取り合っていたようだが、全体を把握している人がいなかったため、下見の段階で、全体を把握する人が誰なのかを明確にしておくべきだった。

下見の段階では、調査をしないと分からないことがあり、話が具体化できない部分が多々あり、様々なことがぼんやりしている。先発ではそれを最終確認するため、仕事が多い。今回は10日間と例年に比べ4日程長い先発日程だったが、それでもギリギリであった。下見では、帰国日が迫っていたため、一泊しか村に滞在できず、できなかったことが多く、不安だったが、現地の人の働きと、長い日程に助けられbestな状態でキャンプに望めた。

【先発について】 (だいどー)

[先発メンバー]

モモ・ペコ・だいどー・はまち・いっしー・なみ

[内容]

- ・ ワーク地の下見
- ・ ワーク内容の確認
- ・ ワークにおける重要人物の確認
- ・ ジェネラルアセンブリーミーティング
 - ⇒FIWC という団体の説明
 - ⇒ワークについての説明
 - ⇒ウェルカムパーティ・フェアウェルパーティのお願い
 - ⇒ワークショップの内容打ち合わせ
 - ⇒スポーツフェスティバルの内容打ち合わせ
- ・ ホームステイ先の選考基準設定・調査

《国内合宿》 (いっしー)

場所：篠栗町高田公民館

日時：2月17日～18日

参加費：一人二千元。(公民館使用料2万円、食事代、酒代等)

キャンプ準備：

- 凧作り
- ぜんざい作り
- アメダル作り

- 人間知恵の輪練習
- ソーラン節練習
- 事前MTG

Peco を除く 2007 キャンパー全員が参加。また、前キャンパー・中国キャンパー・篠栗青年団の方々も参加。

二階のホールで作業・飲み・就寝。(防寒のため寝袋、暖房器具を準備)

一階では展示会が行われていたため、日中は極力騒がないように注意して作業した

《2007 キャンプのスケジュール》 (なみ)

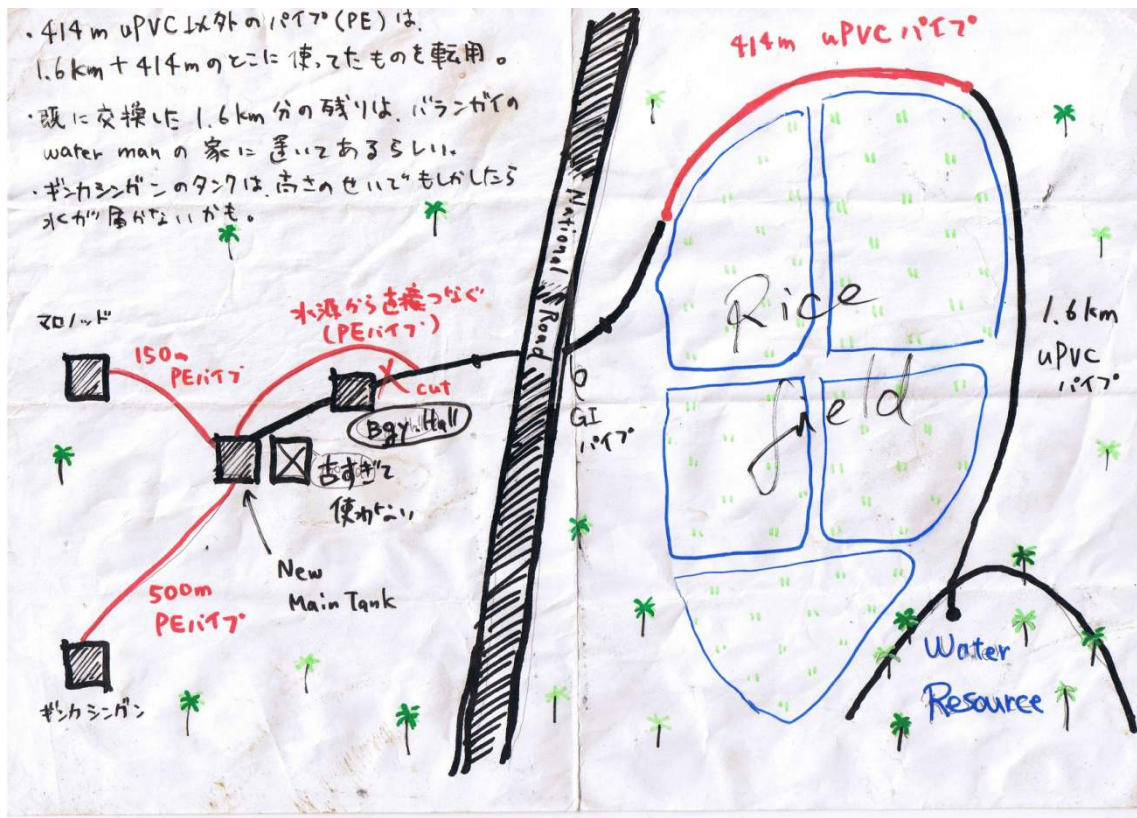
・事前 meeting : 12/10, 12/16, 1/14, 1/21, 1/27, 2/11

・事前合宿 : 2/17.18

・フィリピン滞在時のスケジュール

日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
					2/23	24
					先発出発	Ormoc
25	26	27	28	3/1	2	3
カウンス ルmeeting	Ormoc	work 地確 認	ムニシパ ル	homestay 先訪問	Tacloban ビザ取得	休日
4	5	6	7	8	9	10
Assembly meeting	本隊出発	Welcome party	ワーク	ワーク	ワーク	Work shop
11	12	13	14	15	16	17
休日	ワーク	ワーク Homestay 開始	ワーク	ワーク	ワーク	Sports festival
18	19	20	21	22	23	24
休日	ワーク	ワーク	ワーク	休日	Farewell party	Cebu
25						
帰国						

《ワーク》 (だいどー)



期間：3月7日～21日(日曜は休み、土曜も日本人はイベントのため基本的に休み)

内容：パイプを通すための溝を掘る。

用意した10万ペソの使い道：3インチ径 uPVC パイプ×69本

結果：Bonoy…古いパイプを uPVC パイプ69本に取り替える作業が完了。

バランガイ…ギンカシガンに小さいタンクができ、New Main Tank から、Old Main Tank、マロノッド、ギンカシガンそれぞれへのタンクへのパイプ設置が完了。New Main Tank まで水が来ているのが最終日に確認できた。

今回の主な問題点：①カピタンと水田のオーナー間のミスコミュニケーション

Bonoy の水田にて、パイプを迂回させてあぜ道を通すことでオーナーは合意したのに、そのまま水田の中を直通させるようにワークが進んでいたため、オーナーが腹を立てた。

⇒バランガイがパイプの横1mを15,000ペソで買い取ることでオーナーと和解。

②ワークのスケジュールが不明瞭

キャンパーと Water man のコミュニケーション不足によるもの。また、ワーク地が Bonoy とバランガイに別れていたときは、Water man が Bonoy にかかりつきりだったため、バランガイの方のバヤニハンの人々がワークの詳細をわかっていなかった。(土の深さなど)

今回はミスコミュニケーションなどにより、パイプを通す水田のオーナーが怒ったり、何をしたらいいのかわからないなどという問題も起きました。また、ワークは、現地の村人たちのボランティア(バヤニハンという)を中心に、フィリピン人と日本人で協力して行いました。今回は溝を掘るばかりで非常に単調なワークでしたが、ワーク中はお互いの言葉を教えあったり、冗談を言いあいながら楽しく土を掘っていました。このワークのときこそが一番村人との仲を深める機会にもなっていました。また、このワークも別にカッコリやらなければならないというわけではなく、休みたいときに休憩できるという、結構ゆるい感じでやっていました。

《ワークショップ》 (なみ)

下準備 in Japan

・事前 meeting

各セクションの内容を決定し、タイムテーブル作成、各セクションの責任者・司会者といった役割決めを行った。

・事前合宿

Workshop でやるたこあげ作りを実際にやってみた。しかし、いろんなタコを作ってみたがどれも飛ばなかった。そこでタコ作りを断念し、タコ作りの代わりに紙相撲大会をすることになった。事前合宿でタコ作りをしてなかったら本番で失敗していただろう。

meeting in Philippine

[先発時]

- ・カウンスル meeting にて workshop について簡単に説明
- ・Ormoc の NorWeLeDePai の office を訪問。Workshop について meeting。
- ・Assembly meeting で workshop 告知。持ち物等説明。村人からの質問も受ける。

[本隊時]

- ・3/8 に各セクションで司会者や代表者が言う司会文(英文)をそれぞれの担当者が作成。
- ・3/9 に Nelly(NorWeLeDePai の Mansaha-on 村担当の人)が来て、司会文を渡し、内容をお互いに把握。

当日(3/10)

12時半集合・13時開始の予定だったけれど、子供がなかなか集まらなかった。だんだん集まってきても、参加者の持ち物のコップとスプーンを持ってきていない子供が多かったため、もう一度取りに戻らせた。ある程度の子供が集まってメンバー同士の準備が出来た14時頃から workshop 開始。以下、各セッションの様子を簡単にまとめる。

- ・ 開会式・・・メンバー全員の自己紹介から始まり、メンバーについてのクイズを司会者から出題。正解者にはざっくんからのバルーンのプレゼント。Workshop 以前からメンバーのことをよく知っていた子達が主に発言していた。盛り上がったと思う。
- ・ 紙相撲大会・・・Noren(英語の良く出来る村の女性)にビサヤ語で子供達に説明してもらい、その後ジェスチャーで遊び方の説明をした。小さく切った画用紙を配り、好きなように絵を描いてもらった。ゲームは自由に子供達がやりたいようにやっていた。メンバーと戦ったり、しまいには5人くらいで一気に戦ったりしていた。負けた人には墨汁で顔に落書きをするというのも子供達にうけた。一番盛り上がったセッションだったと思う。
- ・ スナックタイム(ぜんざい)・・・料理は workshop が始まる午前中にぜんざい隊がしておいた。前回のメンバーからフィリピン人には白玉が不評ときいていたので、白玉の代わりにお米を炊いて入れた。お米ぜんざいは子供達にも好評で、楽しいスナックタイムになった。参加者持ち物のコップとスプーンもほとんどの子供が持ってきていたと思う。
- ・ 影絵ゲーム・・・影が作れなかったので、隙間から見えるものをあてるというゲームに変更。帽子といった簡単なものを使ってクイズを出題した。正解者にはバルーンをプレゼントした。
- ・ 手遊び歌・・・「げんこつ山のたぬきさん」を子供達に見せながら一緒にやった。子供達も楽しそうにやってくれた。じゃんけんは共通のようで、一緒にすることが出来た。
- ・ 教えて歌♪・・・フィリピンで流行っている、“DoDoDo DaDaDa”, “Bumtarat tarat”, “パメラパ” という3曲の短いダンスを子供達に教えてもらい、メンバー一人ずつ踊ったり、子供とペアになって踊ったりした。
- ・ 閉会式(テーマソング合唱)・・・テーマソング「輪になって踊ろう」の一部歌詞を模造紙にローマ字で書いて、サビの部分だけ子供達が歌った。サビが何回もあるので、1回だけ曲を流して終了した。

感想・反省

今回のワークショップは成功に終わったと思う。子供達もメンバーも楽しんでいただろう。ただ、紙相撲大会で使った墨汁落書きに関しては、子供達は喜んでいただものの、周りで見ていた大人たちには不評のようだった。目をこすって目の周りが黒くなる子供もいて、危ないところもあった。服についた墨汁もとれなくなってしまっているかもしれない。

メンバー内でワークショップ係は私を含めて3人いたが、その内先発隊は私だけであったということもあり、ほとんどの仕事を私一人でやってしまった。3人で意思疎通を行っ

て、もっと仕事を割り振るべきだったと思う。このことが私にとっての一番の反省点だった。

《スポーツフェスティバル》 (いっしー)

- 出発前
 - ゲームの種類・各ゲームの責任者・時間等を MTG にて事前に決定。
 - Norwele に proposal 提出。
- Official meeting 2/25
 - balanガイオフィシャルへ proposal 提出。
 - 村人への宣伝、当日のスナックの準備を頼む。
- アッセンブリーミーティング 3/4
 - 村人へ sports festival の日時、場所を言う。
- 用意したもの
 - ハチマキ替わりの色テープ、ジュースの粉 (約 20 ペソ×3)、1 ペソパン 300 個をマーケットにて購入。当日の朝、ココナッツの葉で玉入れ用のボールを 150 程度作る。音源、マイクを借りる。バナナを balanガイに用意してもらう。

Sports festival

Time	Activity	Outline	Responsible persons
13:00-	開会式	参加者を4チームに振り分け	BK・いっしー
13:20-	ダンスゲーム	音楽に合わせてダンス。音楽が止まったら動きを止める。	ペコ・こんちゃん・ゆみこ
13:50-	玉入れ	自分のチームのかごにボールを入れる	だいどー・はまじ・ジョン
14:20-	人間知恵の輪	適当につないでからみあった手を解いていく	さと・ざっくん・ジョン
14:40-	サックリレー	サックに入ってジャンプ	いっしー・怜子
15:10-	スナックタイム	パンとジュース、バナナ	
15:40-	ミスターコンテスト		ペコ・こんちゃん・もも
16:10-	ソーラン節	ソーラン節を披露。二回目は皆で踊る。	ナミ・怜子
16:40-	閉会式	結果発表。アメダル・スナックの配布。	BK・いっしー

● 反省

村人の集合が遅れ、開始時間が押してしまったため、ミスターコンテストを中止せざるを得なかった。

Workshop が子供しか参加できなかったため、誰でも参加できるという点を大きく宣伝したつもりだったが、結果的に子供中心になった。

細かい点を挙げると問題はいろいろあったが、ひとまずあまり硬く考えずに、参加者みんなで大盛り上がりとなり、大成功と言えるであろう。

《ホームステイ》 (なみ)

実際に homestay が始まるまでに行ったこと

ノルウェルとの meeting

- ・ メンバー全員金銭的に同レベル家に homestay する。
- ・ homestay 対象の家は world vision に登録されている子どもがいる家のみ。(ノルウェルと関係を持っている家なため、比較的安全だから。)
- ・ 朝ごはんと夜ご飯を用意してもらおう。(昼ごはんはワーク中ということもあり、F I で用意する。)
- ・ stay 代に関しては、現金を stay 先に渡すのではなく、一人で stay する場合は 500 ペソ、二人で stay する場合は 750 ペソと決めて、そのお金で時々買出しに出かけて食材を stay 先に渡すという方針をとることにする。
- ・ プライバシーや安全を守る契約書を作り、host family に署名してもらおう。

先発時

カピタンとソロイソロイに出かけて 20 近くの家を訪問。その中で家が狭すぎる家、お金持ちそうな家、他の家と離れている家など条件の合わない家は却下し、最終的に 14 の家に絞った。homestay 係が各家の場所・名前・家族構成・トイレの有無・水場・家の様子・ペット・備考、をまとめた表、村の簡単な地図(どこに stay 先があるのか)を作成した。

本隊時

本隊到着の 2 日後の朝 6 時から 2 日間強制ソロイソロイに出かけて、14 の家全てを訪問。そして本隊の皆に stay 先を選んでもらった。

Homestay 開始 3 日前にノルウェルの人と F I メンバー 5 人で homestay 確定先を訪問。ホームステイの流れや契約書に署名してもらった。

感想・反省

Stay 先にお金を直接渡さずに、食材を持っていくという方針をとったことは、stay 先や周りの目を考えてみても良いアイデアだったと思う。ただメンバーの中でこの方針を完全に理解していない人がいて、その人の家には食材がほとんどいかなかったということがあった。次回からも現金ではなく食材を持っていくという方針をおすすめするが、メンバー内でちゃんと食材を買って行っているかという確認を時々とっていくといいと思う。

《会計報告》 (はまじ)

今回キャンプでの個人負担（航空券代 約7万円除く）

- ・ワーク費 2万円
- ・生活費 2万円
- ・個人自由費 1万円 計5万円

* ワーク費報告

UPVCパイプ約400m 10万ペソ(約26万円)で、予算のほぼ全額を使い切る。

* 生活費報告

1人2万円×13人=26万円の予算で、6万円の余り。

生活費の参考になるように大体の物価、予算を示す。レート：(円×0.39=ペソ)

(ペソ×約0.25=円)

*2007/03/28の時点において

～食材～

米1kg 24ペソ

魚1kg 25～70ペソ

豚肉1kg 120～140ペソ

水500ml 13ペソ

カット野菜1kg 20ペソ

外食 大体1人20ペソくらい

13人の共同生活中的の昼食は1食100ペソの予算だったが、大体適正だと思われる。

～交通～

交通のまとめで示す。

～税金～

空港使用料 1人200ペソ

出国税 1人750ペソ

余った生活費6万円については毎年1人1万円ずつ集めているF Iのプールにすることになりました。しかし今回のキャンパーは13人なので、足りない7万円分についてはC&Cプロジェクトの助成金から出すことに決まりました。尚、この助成金から、ワーク費2万円をキャンパーにキャッシュバックします。

～先発、下見参加者へのキャッシュバックについて～

先発隊の航空券が本隊より高かったこと、下見からの参加者への金銭的負担を軽減するため、先発隊に12000円、下見参加者に25000円のキャッシュバックをF Iのプールから支払いました。

《生活・安全》 (はまじ)

- * 服装・・・行動しやすく、涼しくて、汚れてもいい格好を。強い日差しを避ける為
&夜は冷え込むので、長袖・長ズボンも必須。現地でも、Tシャツ1枚1000円程度で買えます。

- * 履物・・・汚れてもいい靴を履いて入って、サンダルは現地で買えばいいと思います。
(500円くらい)靴ずれに苦しむ人多数だったので、ビーチサンダルではなく、マジックテープでとめるタイプがオススメ。
(注)団体行動で十分な買い物の時間が取れない場合もあるので、全てを現地調達に頼るのは避けたほうがいいかもしれません。

- * 風呂・・・風呂というか、水浴び。大半は井戸で水を汲んで、服を着たまま浴びる。
シャンプー、石鹸等は現地で買えますが、最初の2～3日分は持って行きましょう。

- * トイレ・・・基本的に便座と紙がありません。便器の上にしゃがむか、空気椅子で用を足す。終わったら、バケツに溜めてある水をひしゃくですくって流します。現地の方は、紙を使わず、水で洗います。紙を使いたい人は各自持参しますが、紙を流すとつまるので、ゴミ箱を作って、その中に捨てます。

- * 食事・・・米が主食です。魚のスープや麺料理がでて、それでご飯に味をつけて食べる感じです。野菜はちょっと少ない気がします。

- * 体調管理・・・日本との生活と結構違うこともあって、風邪をひいたり、お腹を壊したりするので、風邪薬や正露丸を必ず持って行きましょう。あとは蚊。蚊のせいで、眠れぬ夜を過ごすことも多々あるので、現地で蚊よけ、蚊取り線香、蚊帳を必ずゲットしましょう。

- * 保険について
万が一のことを考えて、日本で必ず保険に加入しましょう。オススメ保険は、「損保ジャパン OFF!」保障額が最も高いもので、31日間旅行プランで9000円くらいです。FIでの活動は全て自己責任です。ですから、保険への加入は義務であるとも言えます。
(詳しい保障内容はネットで確認してください)

《交通関係》 (はまじ)

- ・ ハバルハバル 1分1ペソ (目安)
- ・ バス 1時間 40ペソ (studentであることを伝えれば30ペソ)
- ・ タクシー マニラの国内線～国際線間：150ペソ/台 (一律)
フェリーターミナル～セブ市内：130ペソ/台
セブ市内～空港：150ペソ/台

タクシーはぼられること多々なので、メーターをつけてもらえるように粘り強く交渉しましょう。

- ・ super cat (フェリー) を使ったのレイテ島への移動スケジュール
(今回のワーク地 Mansaha-on への行き方)

シランガンホテル出発！！ (朝4時起き、4時半出発)

↓ タクシー 135ペソ 20分

スーパーキャット乗り場 (6時発)

↓ スーパーキャット 600ペソ 150分

Ormoc

↓ バス 40ペソ(student 30ペソ) 60分

↓ バン 60ペソ 60分

Matag-ob

↓ ハバルハバル 7ペソ 7分

Mansaha-on 到着！！

《Mansaha-on に保管している F I W C の道具リスト》

- ・ 青タッパ
- ・ 皿15枚
- ・ スプーン15本
- ・ フォーク14本
- ・ まな板2枚
- ・ たらい
- ・ 手おけ3つ
- ・ おたま
- ・ オレンジおたま
- ・ 緑ポリバケツ
- ・ シャベル7つ
- ・ 白タッパ
- ・ 包丁3本
- ・ ござ4枚
- ・ Water タンク
- ・ ショッピングかご
- ・ ぬけさん bag (日本にある)
- ・ ぬけさんトランプ (日本にある)

《Tシャツ》 (だいでー)

今回のTシャツは、絵の上手なだいでーによってデザインされました。



《前》



《後ろ》

今回のキャンプのコンセプトである「わ」(和、輪など)をテーマに、2人の人間がお手玉で輪を作っている、というデザイン。ちなみに「萌」の字は、フィリピンの子供たちの中で流行語大賞的な感じになったのが「萌えーっ！」だったため、サブテーマに決定。

Tシャツを購入した店：NOVO

Ormoc のスーパーキャット乗り場からガイサノへ向かう道の左側に緑色の看板が見える。2階が洋服売り場。

プリントを依頼した店：ORMOC PRINTSHOPPE

Ormoc の Jolibee(ファーストフード店)のある通りの、ダンキンドーナツの向かい側。

費用：Tシャツ S~L…95ペソ Kids S~XL…75ペソ

印刷…1色10ペソ(前面、背面、肩、すそ それぞれ別)

サイズ：男子は基本的にはS、女子はKids XL ぐらいがちょうどよさそう。

《現地 NGO との協力体制》 (モモ)

Northwestern Leyte Development Parent's Association Inc. (NorWeLeDePai)とは、レイテ島北西部の村々で、子供たちの両親が中心となってコミュニティの発展を目指す活動を行う地域のNGO団体。世界的なNGOである World Vision のドイツ支部が資金援助をしている。



ノルウェル OFFICE 前

具体的活動内容は、

- ・ 貧困家庭の子供とドイツのスポンサーを結ぶ（スポンサーは子供が学校を卒業できるように金銭的、物質的援助をし、同時にスポンサーと子供との間で文通をしたりして文化交流を図る。）
- ・ 地域のリーダー育成（村人が開発プロジェクトを自律的に運営できるようにする。）
- ・ 子供への環境教育などのイベント
- ・ キリスト教の布教
- ・ 生活状況改善のためのプロジェクト（安定した収入源の確保、農業、学校設備、インフラ整備に関するプロジェクト）

我々FIWC九州委員会は、2004年の下見から、NorWeLeDePaiの紹介でキャンプ地を決めたり、資金を出し合ったりして一緒にプロジェクトを進めてきたが、正式な協定は結んでいなかった。今回のキャンプより、この先、FIWCのメンバーが変わっても、NorWeLeDePaiのスタッフがかわっても、安定した協力体制が保てるように、正式にパートナーシップを結ぶことにした。具体的には、互いの連絡方法やプロジェクト実行の際に負担するものを明文化し、代表がサインをする。時間の関係で、キャンプ中に現地で協定を結ぶにいたらなかったので、今後、メールのやり取り通して、細かい協力内容を決定していく予定である。

今回のキャンプ中は、村人とのミーティングの際の翻訳、(英語⇄ビサヤ語) イベント開催時のアドバイス、貴重品の保管などでNorWeLeDePaiにお世話になった。

《各種連絡先》 (モモ)

＜エアーリンク中国通販センター＞（航空券手配。団体割引とか、我々のために色々便宜を図ってくれます。）

担当 田中 義久

TEL:0833-45-2311FAX:0833-45-2312

e-mail chugoku@airlink.co.jp

HP <http://www.airlink.co.jp>

＜損保ジャパン＞（ネットで申し込める海外旅行保険。出発1週間前には申し込むこと。）

<http://www.sompojapan-off.com/>

＜Bureau of Immigration (ビザ申請先 in Tacloban)＞

住所：City Engineer Compound, Justice Romualdez St. Tacloban City 6500

電話番号：053-325-6004, 053-556-9960, 0916-734-3808

オフィスアワー：月～金 8:00-12:00、13:00-17:00

ビザ申請に必要なもの：

パスポート、入国スタンプのついたページのコピー1部、顔写真のページのコピー1部、2020 ペン

*朝7時半くらいに Ormoc 発のバスで行くのがよい。2～3時間で着く。バスターミナルから、トライシクルで上記の住所へ行く。

＜CEBU IMMIGRATION FIELD OFFICE＞（ビザ申請 in Cebu）

住所：P. Burgos St., Tribunal Mandaue City

電話：032-345-6442 to 4 o Fax: 032-345-6441

Airport: 032-340-1473 or 340-0751

＜Northwestern Leyte Development Parents Association Inc.＞

住所：281 Mabini Street, Ormoc City, Leyte

電話番号：053-561-1474 (NorWeLeDePai)

053-561-1454 (World Vision)

代表者：Miss. Marlie Lopez (World Vision) , marlie_lopez@yahoo.com

Miss. Meldred (NorWeLeDePai), mcm_matol@yahoo.com Tel: 091-6505-3584

* 下見やキャンプの日程が決まったらできるだけ早く、出発前までに必ず上記の電話番号とメールアドレスの両方に連絡する。

<Municipality Matag-ob 市役所>

インフォメーション係：Miss. Ligaya Pastor

エンジニア代表：Miss. Medina Aldaya

電話番号：053-554-2074、053-554-2072(市役所に隣接する警察署)

月～金 8:00-12:00、13:00-17:00

*代表の電話につながるので、上記の名前を言ってつないでもらう。

《ビサヤ語》 (いっしー)

● 仲良くなれるビサヤ語

マーヨン ブンタ(グ) (おはよう)

マーヨン ハーポン (こんにちは)

マーヨン ガビイ (こんばんは)

アコ シ ○○ (私は○○です。)

キンサ(ウンサでも可) イモン パンガラン? (名前何?)

ピラ イモン イダッド? (何歳?)

● 生活で使えるビサヤ語

サラマツ (ありがとう) ワイ サパヤン (どういたしまして)

ラミ (美味しい) ワイ ラミ (不味い)

ゴトン (腹へった) ブソツ(ク) (お腹いっぱい)

グワパ (可愛い) グワポ (カッコイイ)

ホボック (酔っ払い) バホッ (臭い)

ワ カサボ (分からない) ナ カサボッ コ (分かります)

● Work でつかえるビサヤ語

ポリポリ (交代) タラナ (let's go)

カポイ (疲れた) ワ カポイ (疲れてない)

パスパス (速く) ヒナイヒナイ (ゆっくり)

ガヒッ (堅い) ホモッ(ク) (やわらかい)

イニット (熱い) サキッ(ト) (痛い)

タイ (ウンコ) バサッ (びしょびしょ)

● 喜ばれるビサヤ語

マロマロ (play boy/girl)

コモッ トトイ (おっぱいもむ)

ソプソプ トトイ (おっぱい吸う)

トントンビタイ (一人行為)

ライライ エッグログ (タマゴたふたぶ)

カタマ コ タイ (ウンコ踏んじやった)

《持ち物リスト》

荷物はなるべくコンパクトに。かついで移動するので、キャスター付のものやスーツケースはNG。

バックパックやポストンバッグで。現地で調達できるものも多いです。

Tシャツと短ズボン	一番基本的な着用するもの。現地でも買える。ワーク中は汚れやすいので、ドロドロになっても良いものを。洗濯が面倒な人は多ければ多いほどよいアイテム。
長袖シャツと長袖ズボン	夜は冷え込むことがある。そして日焼け防止用のためにも持っていくほうをおすすめ。
履物	ドロドロに汚れてもいいものを。自分の足が安定するもので。現地で安いのを買うこともおすすめ。
時計	現地でも安く買えるが、壊れやすいものが多い。ワークやご飯の時間は団体行動なので時間把握は絶対。
ノートと筆記用具	現地についてもミーティングは行うので必須。
懐中電灯	電気がない所が多いので必須。電池も忘れずに。
タオル	紛失防止のため自分の名前をかく。
サブ バッグ	財布やデジカメといった貴重品が入る普段の移動用。ウエストポーチなど。
南京錠	盗難防止用。バッグにつける。ダイヤル式がオススメ。
常備薬	正露丸は必須。個人で用意。
雨具	傘よりもカッパが良い。
帽子	日差しが強いのであればと良い。現地でも買える。
軍手	ワークに必要。
毛布、寝袋、銀マット	飛行機で毛布をもらってくると良い。薄いので2枚以上あると良い。
お土産	ステイ先へのお土産。日本のおもちゃ、飾り、お菓子など。
顔写真	5×5を3枚程度。パスポート紛失の時必要。
パスポートのコピー	紛失時用。
学生証	学割がきく乗物がある。出来る限りアルファベット表示のあるもの。
日焼け止め	
お風呂用品	現地にも買えるが、最初の2日分程度は持って行くとよい。
目覚まし時計	日本の携帯電話か、旅行用時計。
キャンプ関連書類	これまでの報告書、ビサヤ語テキスト、ミーティングの資料など。
ウェットティッシュ	水がない時でも使えるのでオススメ。

- ・虫除けについて

蚊が多いです。『OFF』という現地の虫除けがオススメ。緑色のと、ピンク色のあるが、緑色の方がオススメ。

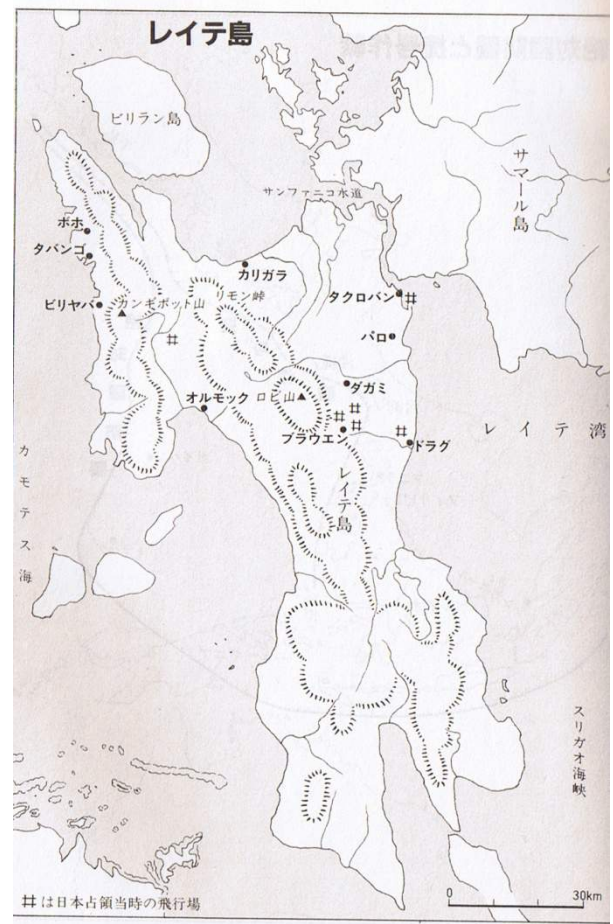
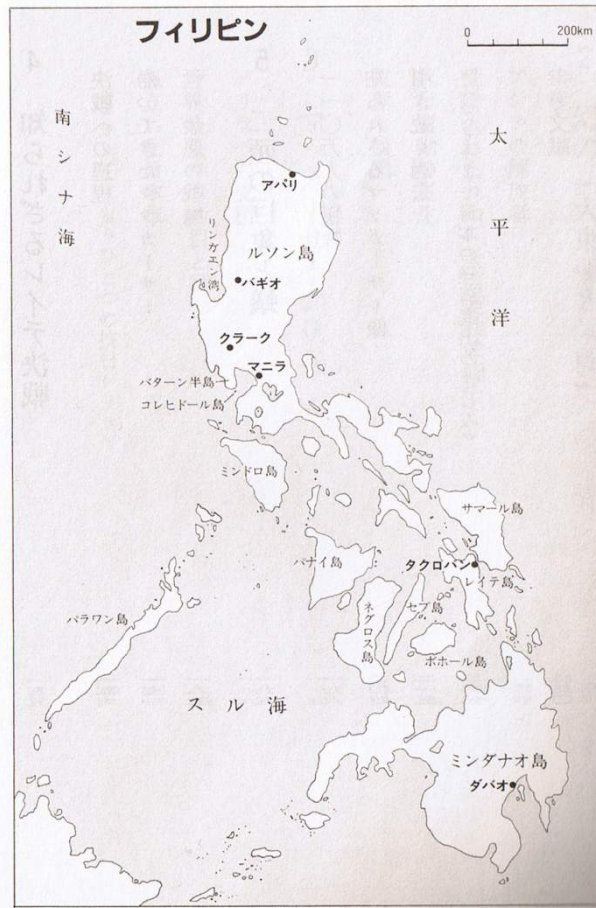
- ・電気について

100-250V と表記されている電化製品は現地でも使える。120V とだけしか表記されていないものは日本でしか使えない。デジカメはほとんど使える。

- ・リメンバランス(remembrance)について

フィリピンでは出会ったその人との思い出として **remembrance** をあげる文化があるようです。言ってしまうと記念品・形見のようなもの。一番好まれるのは、証明写真です。プリクラでも良いが、証明写真の方が人気です。顔写真以外でも、いらないブレスレットやキーホルダーといった小物を持っていくのもオススメです。要は何でもいいのですが、帰国間近になると沢山の人が **remembrance** を要求されます。それがストレスになる人もいますので、**remembrance** のことは予め頭に入れて準備しておいてください。

★MAP★



Welcome も Farewell も素敵なダンスで心温かく私達のことを受け入れてくれた。

陽気なダンス村、Mansaha-on。

見つけたものの大きさは、計り知れない。

日本という国が忘れかけている何か大切なものが、そこにあった。

美しい素敵な笑顔がたくさんあった。

温かい心が溢れていた。

いつかまた戻りたい。あの村へ。

♪Country roads

Take me home

To the place we belonged

Mansaha-on

Okay lang lang

Take us home

Country roads ~♪

(カントリーロードかえうた♪) レイコ作